

春日部市地震ハザードマップ エリア1 建物倒壊危険度

※揺れやすさをもとに、建物の構造、建築年次などのデータをあわせ地震被害を計算して、建物倒壊の危険度を示していますので、揺れが弱い場所でも建物構造や建築年次などにより、危険度が大きくなる場所もあります。

避難場所受け入れについて

避難場所の受け入れ地域は特に限定していません。道路の寸断や建物倒壊などによる避難経路の遮断によって、避難する場所が異なってきますので、あらかじめ近くで数カ所の避難場所を確認しておいてください。
(隣接市町の避難場所も使用できます。)



帰宅困難になったら →

鉄道などの交通機関が運転を再開するまで「むやみに移動を開始しない」ことが重要です。そのうえで、徒歩帰宅への検討・準備をしておきましょう。

●まずは、情報の収集から

大規模災害時に、被害の状況がわからないままに行動すると、思わぬ危険にあたり、応急活動の妨げになることがあります。火の始末などの必要な措置を行い、被害情報等を確認し、適切な行動を心がけましょう。

- ・携帯ラジオにより正確な情報を把握する。
- ・うわさ話や出所不明の情報は信用しない。
- ・一人ひとりが冷静な判断と、適切な行動をとる。
- ・不要、不急の電話はかけない。
- ・不確かな情報は他人に伝えない。

●帰宅経路を考える

徒歩による帰宅ルートを平常時に確認しておきましょう。

- ・徒歩、バスにより街並みを記憶する。
- ・危険箇所を把握する。
- ・住宅街の細い道は、危険が多い。
- ・利用可能施設(休憩所)を確認する。
- ・通行止め、交通規制を想定し、迂回路も検討する。

●家族の安否の確認は？

災害時の家族等との連絡先は、遠くの親戚など、事前に家族内で決めておきましょう。また、NTTの災害用伝言ダイヤルを活用することで、安否などに関する伝言を録音、再生することや、携帯電話での災害用伝言板サービスの利用ができます。

- ・「171」をダイヤルし、利用ガイドランスに従って伝言の録音・再生(災害伝言ダイヤル)
- ・携帯電話災害用伝言板サービスの活用
- ・連絡カード(遠くの親類など)
- ・家族の写真(家族を探す時に役立つ)
- ・事前に避難場所の確認
- ・声をかけ合い、助け合う

●帰宅グッズを備えよう

徒歩により帰宅する場合、状況によっては事前の準備が必要となります。

- ・職場にはスニーカー
- ・スマートフォン・携帯電話(予備電池)
- ・携帯ラジオ
- ・地図・懐中電灯(予備電池)
- ・防寒着・手袋
- ・携帯食料・飲料水

危険度数	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
危険度5	10~20%
危険度4	7~10%
危険度3	5~7%
危険度2	3~5%
危険度1	0~3%

---	行政界
---	地区境
---	河川
○	市役所、総合支所
⊗	警察署
⊕	消防署
①	避難場所



エリア1
建物倒壊危険度

エリア1
建物倒壊危険度

